

## 令和4年度第1回千代田区商工振興連絡調整会議 議事録

- 日 時：令和4(2022)年7月28日(木) 14:00~15:30
- 会 場：千代田区役所8階 第1・2委員会室
- 出席状況：出席者12人
- 千代田区：地域振興部長、商工観光課長、産業企画担当課長、商工振興係長、経営相談・融資担当係長、観光・地方連携担当係長、商工振興担当係長、産業企画担当係長、商工振興担当者
- 議 題：(1) 産業振興基本計画(改定商工振興基本計画)の素案について
  - ①素案の全体説明について
  - ②素案に関する事務局からの確認事項について
- (2) その他

### ● …委員発言

(議事要旨)

#### (1) 改定商工振興基本計画の素案について

##### ①素案の全体説明について

##### <①について事務局から説明>

(観光振興について)

- DXやメタバース等に関する観光イベント等新しいことを行うにあたり、道路占用や公園使用に対して、区に規制緩和をしていただけないかと考えている。観光振興の視点から、規制緩和に関して考えていることはあるか。

商工観光課長) 観光等のイベントに際し、道路占用や公園利用で、行政が規制緩和に携わっていく必要があるのではないかと区内でも議論しており、課題認識はある。規制緩和については所管の課を超えるため、本計画内にどこまで記載できるか不透明であるが、今後、新たな取り組みを行いやすい環境づくりが必要になってくると認識しているので、要素として触れることができないか検討する。また、メタバース等のデジタル産業は新たな観光の切り口になるため、重要であると認識している。ただし、本計画は方向性を示すものであるため、個別の事業については、年度ごとの事業の方でお示しさせていただく。

- 新型コロナウイルス感染拡大以前は、秋葉原に500万人程度のインバウンドが訪れていた。アフターコロナを見据え、インバウンド受け入れの準備も進めておき、V字回復に向けた取り組みを行う必要があると考え、発言させてもらった。

(商店街支援について)

- 商店街の課題は、説明いただいた素案の記載通りである。さらにもう1つ認識していただきたいのが、個々の商店街がまち単位で連携していく必要があるということ。長年、

商店街は地域の消費に向き合って存在してきたが、時代の要請から、向き合う対象が、東京都内、全国、世界から訪れる観光客に広がっている。しかし、今の商店街の形がこうした客層にマッチしているとは言い難い。今後は各商店街が連携して、新たな取組みを行っていかねばいけないと考えている。例えば、神保町の交差点を中心に5～6商店街あるが、各商店街がそれぞれアピールしても発信力に乏しいため、顧客に届かない。しかし、複数の商店街が協力して「神保町の商店街」として大きくPRすれば顧客に訴求できる。商店街を統合すればよいという意見もあるが、各商店街は異なる歴史や人のコミュニティの上で成り立っているため、非常に難しい。複数の商店街が、まちとして1つになって発信力を高めるにはどうしたらいいか、今後も区と商店街と一緒に考えていきたい。

商工観光課長) 複数商店街が共同で行った「夢はがき」の取組みは、非常に反響が良かったと聞く。歴史的背景を尊重しながら、いくつかの商店街がまとまって活動を行うことは、商売、ブランディング等で非常に良い面もあるので、区としても、支援の方向性としてはあると考えている。支援にあたっては、現状の総会等への出席等の関わり方よりも踏み込んで商店街の皆さまと関わらせていただき、商店街の実態や課題を把握していく必要もあると感じている。

- また、商店街には事務的なサポートが必要であると感じている。町会の場合は、各出張所で事務的なサポートを受けることができる。しかし、商店街の場合、各会に事務的なサポートをするような機能が足りていない。商店会の会長が事務手続き等も全て行っていく必要があり、非常に大変であることから、次代の担い手が見つからないという場合も多く、商店街維持のためにも重要な観点である。商店街も事務的なサポートが受けられると非常に助かる。

商工観光課長) 商店街の後継者問題については、若い経営者が商店街の活動に参加してもらえるような仕組みを作る方向性で考えている。所管外であるため、私からはっきりとしたことは申し上げられないが、庁内でのDXの取組みが進んでいくことで、出張所のあり方や機能が変わり、区民や商店街等の皆様に今までと違ったサービス提供ができる可能性もあると考えている。

#### (各種団体支援について)

- 自身は、一般社団法人という形で任意団体を設立し、まちに関わりたいという若い人をまとめて、eスポーツやコンテンツ産業振興等、新たな取組みを進めている。こういった新たな団体等は歴史もなく、支援や補助を受けられないこともある。スタートアップ支援等、新たなことを行う人や団体を支援していく中で、資金面等の困りごとに対して支援してほしい。

商工観光課長) 新たな取組みに関して、区民にご理解いただくという意味で町会や商店街等の地域とのコラボレーション等、既存の枠組みを活用した支援方法も考えられる。千代田区ならではの支援をしていきたい。

(外国人への創業支援について)

- 個別方針1「多様な事業者を誘致し、イノベーションの創出を促進」の多様な事業者の中に、外国人のスタートアップ起業者も含めて考えていく必要があるのではないか。日本でスタートアップの起業を行いたい外国人は多いが、ビザを取得するためには、資本金500万以上、2人以上の雇用等の条件が大きなハードルとなっている。このため、有望な技術やアイデアを持つ外国人は、日本での創業をあきらめ、アメリカ等の海外に行ってしまう。これは日本にとっても大きな損失ではないか。区で何か支援を行うことができれば、千代田区に起業したい外国人が集まってくるのではないかと考える。

商工観光課長) 個別方針の「多様な」という言葉には外国人も含まれる。外国人のビザに関して、東京都が国家戦略特区を活用した支援を行っている。丸の内にはその東京都の取組みとしてビザ取得を含む創業支援の相談窓口(東京創業ワンストップセンター)があり、重複しないよう検討は必要だが、支援の取組みとしては、あり得ると思うので、区としてできることを検討したい。

(若い世代を中心とした創業支援について)

- 千代田区は、中央区や港区と比較して年配の経営者が比較的多いと感じる。今後、千代田区で起業したいとあっていただくには、若い経営者への支援も必要である。シェアオフィスへの支援やシェアオフィスと保育施設の併設等、子育てにも配慮した創業支援策があると良いのではないかと考える。

商工観光課長) シェアオフィスについては、プラットフォームスクエアで区独自の支援をしている。若い方々の起業については、子育ての要素も大きく関わってくるため、教育の分野とも連携していくことが重要だと考えている。また、千代田区の場合、民間のシェアオフィスも多いため、連携していくことも重要である。

(地方との連携について)

- これからの地方連携は、今までの連携のあり方と変わっていくのではないかと考えている。単発の企画やイベントに留まらず、環境やエネルギーの面において相互に循環して持続的につながり、日常の中で意識せずとも地方との連携を感じられるような仕組みが必要ではないかと考える。地方で生産されたエネルギーを区内の学校施設等で活用したり、地方の森林を用いて校舎等公共施設の内装を木質化したり、地方食材を給食で取り入れたりすることもできると考えている。また、ライフスタイルの多様化に合わせた連携も可能ではないかと考える。若い方を中心として二拠点居住で子育てをしたいというニーズが増えている中で、姉妹都市や連携自治体で、教育留学ができる、ワーケーションができる等の取組みを行えたら良い。サステナビリティ、住まい方の多様性といった観点から、千代田区が地方との連携をリードし、新たなビジョンを見せていくことで、若い世代等が子育てしてみたいまちになっていけるのではないかと考える。

商工観光課長) 現在「千代田区における地方との連携のあり方」に基づいて、相互に恩恵のある連携、等といった大きな方向性で進めているが、具体的な取組みまで落としきれていない。地方との連携はこれまで以上に求められるものが大きくなっている。これまでは、マルシェ等食のイベント等が主流だったが、区民の方に地方との連携のメリットが伝えきれていなかった。おっしゃる通り、生活の中で連携都市が感じられるような仕掛けづくり等も考えていきたい。また、「あり方」自体も改定の予定のため、ライフスタイルのニーズも含め、皆様からのご意見を参考にしながら、オール千代田で地方との連携のあり方を考えていきたい。

## ②素案に関する事務局からの確認事項について

### <確認事項について事務局から説明>

(副題について)

座長) 副題案についてご意見を伺いたい。

- (特に意見なし)

座長) 特に意見は無かったため、副題については「多彩な魅力と新しい活力あふれる産業・観光都市」に決定する。

(基本方針 1、2 の順番について)

- 2「ちよだの各まちブランドを活かした産業の活性化」については、老舗の商店等も含めた千代田区の既存の産業に対する方針だと認識している。1「ちよだの立地を活かした中小企業等の振興」にはスタートアップ等新しい産業に対する方針と捉えている。今回の計画改定の趣旨を踏まえると、今後の千代田区をどうしていくのかに重点を置いた方が良かったため、現在の1(新しい産業)→2(既存産業)の順番で問題ないとする。

商工振興担当係長) 補足をすると、基本方針1には新しい企業(スタートアップの取組み)への支援もあるが、新しい企業だけでなく、既存の中小企業に対する取組み(個別方針2、3)も含まれている。

- 既存の商業を大切にすることもよくわかる。商業に関する支援が最初にあると楽しそうな感じがでて、基本方針2を最初にしてもわかりやすい面もあるのではないか。
- そのままで良い。最初に中小企業支援という、ある意味地味かもしれないがあるが、現行計画も1が中小企業、2が商工業という流れもあり、流れとして今の案が自然である。
- 区の産業の土台となる中小企業があつてこそ区が成り立ち、観光も成り立つと考えられるため、最初に中小企業支援がある方が良い。

座長) 委員の皆さんのご意見を総合的に踏まえ、順番は変えず1「ちよだの立地を活かした中小企業振興」、2「ちよだの各まちブランドを活かした産業の活性化」とする。

(「ちよだ」というひらがな表記について)

- あえて理由がないのであれば、まとまって意味を理解できる漢字の方がわかりやすい。

- 外国人を本計画のターゲットに入れるのであれば、外国人観光客の多くを占める中国人は、ひらがなやカタカナが読めないことも多いため、漢字の方が良い。
- 漢字で「千代田区」と記載するのがいいと思う。  
座長) 表記については、「千代田区」とさせていただきます。

(表紙について)

- 表紙のデザインにメタバースやD×等新しい要素も入れられたら、今までの計画と異なる印象を与えられるのではないかと。  
商工振興担当係長) 確認し、調整させていただく。調和をとれるような形であれば、ぜひいれこみたいが、またご相談させていただきたい。  
座長) 本文中の写真等でも入れ込むことも可能ではないかと。  
商工振興担当係長) 承知した。今後調整していく。

## (2) その他

<中小企業の景況に係る説明>

<次回以降の開催予定に係る説明>

- (特に意見なし)

## 3 閉会

座長) これにて閉会します。長時間にわたり活発なご議論をありがとうございました。